

国際連合児童基金 (UNICEF) と協力覚書を締結

～保健・栄養・教育分野を中心に SDGs、人間の安全保障の達成に貢献～

2019 年 8 月 30 日

国際協力機構 (JICA) は、8 月 28 日、国際連合児童基金 (UNICEF) と協力覚書を締結しました。署名は、第 7 回アフリカ開発会議 (TICAD7) 開催中の横浜にて、ヘンリエッタ・フォア UNICEF 事務局長と、北岡伸一 JICA 理事長との間で行われました。JICA と UNICEF のこれまでの現場での連携実績に基づき、従来以上に戦略的に緊密な連携を図ることで、人道・開発分野の活動の効果を高めることを目的としています。覚書で掲げている協力対象分野は保健、栄養、教育、水・衛生、人々のエンパワメント・保護など多岐にわたります。



署名式の様子

今回の覚書により、世界中に拠点を持ち子どもや若者を中心とした支援を行う UNICEF と、幅広い分野で開発協力を行い乳児から高齢者までライフコースを通じた支援を提供する JICA が、現場でのさらなる連携を進め、保健・栄養・教育分野を中心に開発の相乗効果を高める努力をしていくことを確認しました。

JICA と UNICEF はこれまで、現場レベルで、母子手帳の普及 (アフガニスタン、ブルンジ)、ワクチン調達 (パキスタン、ナイジェリア)、栄養改善 (エチオピア)、ノンフォーマル教育 (パキスタン)、算数ドリル活用 (ニジェール・みんなの学校プロジェクト) など、様々な活動を共に実施してきました。国際レベルでは、UNICEF は、JICA が主導する「食と栄養のアフリカ・イニシアチブ (IFNA)」運営委員会の主要メンバーであり、また、人的資本の重要性を世界に訴える Human Capital Champion としても共に貢献しています。

JICA は今後、UNICEF とより一層協力し、SDGs および人間の安全保障の達成に貢献していきます。